

アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier

オペラパレス | 5回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1896年3月28日 ミラノ・スカラ座

作曲：ウンベルト・ジョルダノ Umberto Giordano (1867-1948)

台本：ルイーヂ・イリカ Luigi Illica

演目選定にあたって

イタリアのオペラ作曲家ジョルダノによるヴェリズモ・オペラの代表作ですが、上演機会がきわめて少ない作品です。2005年11月のプレミエは日本国内上演史上、3つ目のプロダクションとなりました。パリ生まれパリ育ちのフィリップ・アルローは、フランス革命期のパリを舞台にした作品の演出にあたり、登場人物たちの心にはぐくまれる《愛》で物語を進行させつつ、混乱状態の中で命を落とした多くの人々の存在を舞台上に視覚化することに成功しました。ギロチンで区切られた各幕の舞台は、世相を象徴する絵画がイメージ素材となっています。第1幕はロココ時代のフラゴナール、第2幕はドラクロワの「民衆を率いる自由の女神」、第3幕はゴヤの暗く重いイメージ、第4幕にはロマン主義絵画を代表するカスパル・ダーヴィット・フリードリッヒの世界が展開します。暴力が暴力を生む歴史の連鎖を断ち切る可能性について、現代を生きる私たちに問いかけているのです。パリ生まれの指揮者フレデリック・シャスランによる流麗な音楽づくりにもご期待ください。

作品解説

ジョルダノがオペラ作曲家としての名声を確立した最高傑作。フランス革命期に生き、断頭台の露と消えた詩人アンドレア・シェニエと伯爵令嬢マッドレーナの崇高な愛、そして伯爵家従僕から革命政府中堅リーダーとなったジェラルルのマッドレーナへの愛と革命への忠誠心のせめぎ合いが、ドラマティックに描かれています。愛の尊さを説くシェニエの〈ある日藍色の空を〉、理想と情欲のあいだで逡巡する自己を自嘲するジェラルルの〈祖国の敵〉といったスケールの大きい名アリアや、永遠の愛を誓ったシェニエとマッドレーナが死出の旅立ちの前に歌う迫力の二重唱、さらに〈ラ・マルセイエーズ〉など動乱の革命を伝える楽曲が挿入され、聴き所満載です。歌手に要求される技術的難易度の高さもあって、名作でありながら上演の機会がきわめて少なく、日本初演は1961年イタリア歌劇団来日公演、その後1994年の藤原歌劇団公演を経て新国立劇場プロダクション(2005年)が貴重な上演となりました。

あらすじ

1789年のパリ郊外。コワニー伯爵邸の夜会で、伯爵令嬢マッドレーナは無口な詩人シェニエが披露した愛の崇高さと憂国の情を情熱的に歌った即興詩に感動する。一方、マッドレーナに思いを寄せる伯爵家の従僕ジェラルールもシェニエの詩に感動し、階級社会への不満を爆発させて伯爵家を飛び出す。5年後、ジェラルールは革命政府の高官に昇りつめている。マッドレーナは侍女のベルシと共に零落し、革命政府に批判的なシェニエは密偵に狙われている。二人は監視の目をくぐりぬけて再会し愛を確かめ合うが、マッドレーナを探すジェラルールによってシェニエは捕らえられ革命裁判にかけられる。マッドレーナはジェラルールにシェニエの助命を懇願。ジェラルールは自分の横恋慕を恥じ、シェニエの弁護に回るが受け入れられず死刑判決が下る。ジェラルールの計らいでマッドレーナは女死刑囚の身代わりとなってシェニエが囚われている監獄へ入る。再会を歓ぶ二人は、永遠の愛を誓いながら断頭台へ運ばれていく。



2005年公演より

U. ジョルダノ

アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier / Umberto Giordano

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	フレデリック・シャスラン
Conductor	Frédéric Chaslin
演出・美術・照明……………	フィリップ・アルロー
Production, Scenery, Lighting Design	Philippe Arlaud
衣裳……………	アンドレア・ウーマン
Costume Design	Andrea Uhmann
アンドレア・シェニエ……………	ミハイル・アガフォノフ
Andrea Chénier	Mikhail Agafonov
マッダレーナ……………	ノルマ・ファンティニー
Maddalena di Coigny	Norma Fantini
ジェラルール……………	アルベルト・ガザーレ
Carlo Gérard	Alberto Gazale
ルーシェ……………	成田博之
Roucher	Narita Hiroyuki
密偵……………	高橋 淳
Un Incredible	Takahashi Jun
コワニー伯爵夫人……………	森山京子
La Contessa di Coigny	Moriyama Kyoko
ベルシ……………	山下牧子
Bersi	Yamashita Makiko
マデロン……………	竹本節子
Madelon	Takemoto Setsuko
マテュー……………	大久保 眞
Mathieu	Okubo Makoto
フレヴィル……………	萩原 潤
Fléville	Hagiwara Jun
修道院長……………	加茂下 稔
L'Abate	Kamoshita Minoru
フーキエ・タンヴィル……………	小林由樹
Fouquier Tinville	Kobayashi Yoshiki
家令／シュミット……………	大澤 建
Il Maestro di Casa/Schmidt	Osawa Ken
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.11/12 (金) 6:30 11/21 (日) 2:00
 11/15 (月) 2:00 11/24 (水) 2:00
 11/18 (木) 7:00

オペラパレス

【チケット料金 (税込)】

S: 21,000円・A: 15,750円・B: 10,500円・C: 6,300円・D: 3,150円

【前売開始】2010.6/19 (土)

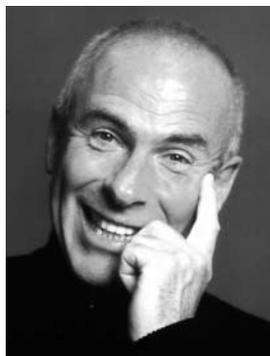
アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier / Umberto Giordano

指揮：フレデリック・シャスラン

Conductor : Frédéric Chaslin

パリ生まれ。ピアノと指揮を学んだ後、指揮活動をはじめるかたわら、ピアニストとしても活躍する。これまでにウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、マドリッドのレアル劇場、バルセロナのリセウ劇場、フェニーチェ歌劇場、ブレゲンツ音楽祭などに登場。『セビリアの理髪師』『椿姫』『トスカ』『アイーダ』『ファルスタッフ』『イル・トロヴァトーレ』『ナブッコ』『夢遊病の女』『清教徒』楽劇『ニーベルングの指環』『サムソンとデリラ』『ウェルテル』『カルメン』『トロイ人』『ホフマン物語』など幅広いオペラ・レパートリーを誇る。新国立劇場には2009年『トスカ』で初登場。



演出・美術・照明：フィリップ・アルロー

Production, Scenery, Lighting Design : Philippe Arlaud

パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリンスキー劇場といった世界の一流歌劇場や、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。新国立劇場では03年『ホフマン物語』演出・美術・照明を担当。“光の魔術師”の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。さらに05年『アンドレア・シェニエ』に続き2010/2011シーズンオープニングの『アラベッタ』新演出で再登場となる。

アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier / Umberto Giordano

アンドレア・シェニエ: ミハイル・アガフォノフ

Andrea Chénier : Mikhail Agafonov

モスクワ生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、リヨン国立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、マンハイム州立歌劇場、トロントのカナディアン・オペラなどに出演している。『エルナーニ』タイトルロール、『愛の妙薬』ネモリーノ、『リゴレット』マントヴァ公爵、『アイーダ』ラダメス、『ドン・カルロ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『西部の娘』ジョンソン、『ボリス・ゴドゥノフ』グリゴリー、『金鶏』占星術師など幅広いレパートリーを誇る。今後はドレスデンで『トスカ』、ヘルシンキで『仮面舞踏会』、エッセンとアントワープで『アイーダ』などがある。新国立劇場初登場。



マッダレーナ: ノルマ・ファンティーニ

Maddalena di Coigny : Norma Fantini

イタリア北部のクネオ生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場など世界各地の主要歌劇場に出演。『オテロ』デズデーモナ、『運命の力』レオノーラ、『シモン・ボッカネグラ』マリア、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『アイーダ』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナなどをレパートリーとする。今後の予定として、ハンブルク州立歌劇場で『アンドレア・シェニエ』、ザクセン州立歌劇場で『トスカ』などがある。新国立劇場には『アイーダ』タイトルロール、『仮面舞踏会』アメリア、『トスカ』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、2010年『ニューイヤーオペラパレス ガラ』に出演している。

ジェラルド: アルベルト・ガザーレ

Carlo Gérard : Alberto Gazale

イタリアのサッサリ生まれ。ヴェローナとマントヴァで学ぶ。カルロ・ベルゴンツィに師事。数多くのコンクールに優勝。1998年にバルマでオペラデビュー。これまでにミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリッヒ歌劇場、マドリッドのレアル劇場などに出演。ヴェルディを得意とし、『マクベス』『ナブッコ』『リゴレット』『シモン・ボッカネグラ』のタイトルロールや、『オテロ』イアーゴのほか『アンドレア・シェニエ』ジェラルド、『トスカ』スカルピア、『道化師』トニオなど幅広いレパートリーを誇る。今後は、ヴェローナ野外劇場『仮面舞踏会』レナート、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、ウィーン国立歌劇場『椿姫』ジェルモン、『ナブッコ』タイトルロールなどに出演予定。新国立劇場初登場。

